

# ひと はな

隠岐の島町移住定住ガイドブック





## 自然と文化の島です



島根県から北へ約 80km 離れた海上にある、隠岐諸島（※）の中で最大の島です。2013 年に世界ジオパークに認定され、国立公園にも指定されるほど自然豊かな島でありながら、フェリーや高速船に加え空港もあるため、都市部からのアクセスも充実しています。

※隠岐諸島……大小約 180 を超える島々で構成されており、そのうち隠岐の島町を含む 4 つの島が有人島です。

## どこへでも、車で30分です



道路がきっちり整備されているので、島のどこからどこへでも車で概ね 30 分以内で行くことができます。ほぼ円形に近い島で、外周をぐるっと周ると車で 2 時間程度です



## 隠岐の島町全体マップ

島町の概要... 全体マップ・西郷エリア

### 隠岐の島町人口データ（※2021年10月1日現在）

総人口	13,732 人
男	6,714 人
女	7,018 人
65歳以上	5,632 人
世帯数	7,086 世帯



大自然に取り囲まれながらも、大型スーパーやドラッグストア、カフェにレストラン、病院や学校まで充実しており、離島とは思えないほど不便を感じ無い生活が送れます。また、島内全域に光インターネット回線が整備されています。

主要施設等	スーパーマーケット	2	教育施設	保育園・保育所等	8	飲食店	総合飲食店	30
	ドラッグストア	2		小学校	7		寿司店	4
	ホームセンター	1		中学校	4		焼肉店	5
	大型家電量販店	2		高等学校	3		イタリアン	1
	リサイクルショップ	2	図書館	1	中華		5	
	100円均一ショップ	2	医療施設	病院	1	カフェ・喫茶店	11	
	銀行支店	2		診療所（公立）・医院	9	洋菓子（ケーキ）店	1	
	農業協同組合（ATM設置）	4		歯科（公立）・医院	6			
	コインランドリー	3	その他	警察署	1			
	ゴミ処理施設	2		駐在所	5			
携帯電話販売店	2	消防署		1				
郵便局（ゆうちょ ATM 設置）	8							



## — エリア紹介 — さいごう 西郷エリア

船と人がせわしく行き交う

古くから島の中心地として栄え、江戸時代半ばからは北海道・東北から大阪を結ぶ交易船「北前船」の寄港地としても繁栄した西郷の港。現在でも飛行機・フェリーなどの交通や商業地、漁業などの産業が集積する島の経済の中心地域です。



— エリア紹介 —  
ふせ  
布施エリア

木々と風が音色を奏でる

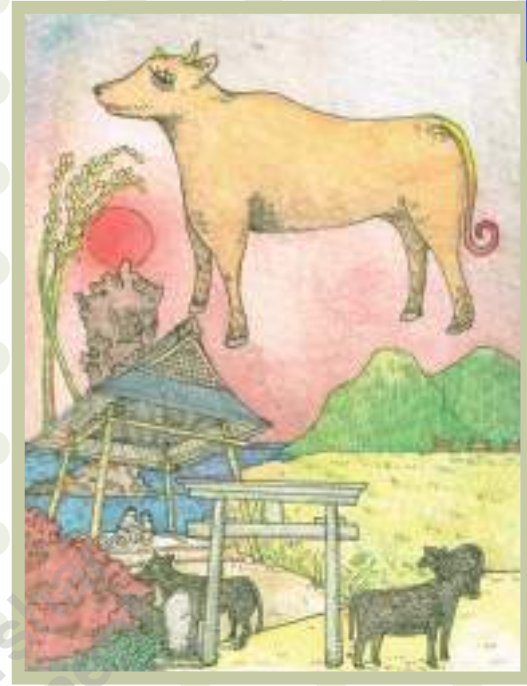
ちちすぎ  
樹齢800年の御神木「乳房杉」をはじめ巨大杉が繁茂する天然林など、島有数の森林を有する地域です。対馬暖流の影響で、冬は温暖、夏は本土内陸部より寒冷であることにより、北方系・南方系の植物が共生する豊かな森に癒されるエリアです。



五箇エリア

牛と人が共に歩む

島でも有数な田園地帯が広がる五箇エリア。古来より田園の生活に欠かせなかった牛を使い、800年の歴史を誇る闘牛文化「牛突き」や「相撲」など島を代表する伝統文化が盛んなエリアです。



— エリア紹介 —  
なかむら  
中村エリア

砂浜と海が太陽で煌めく

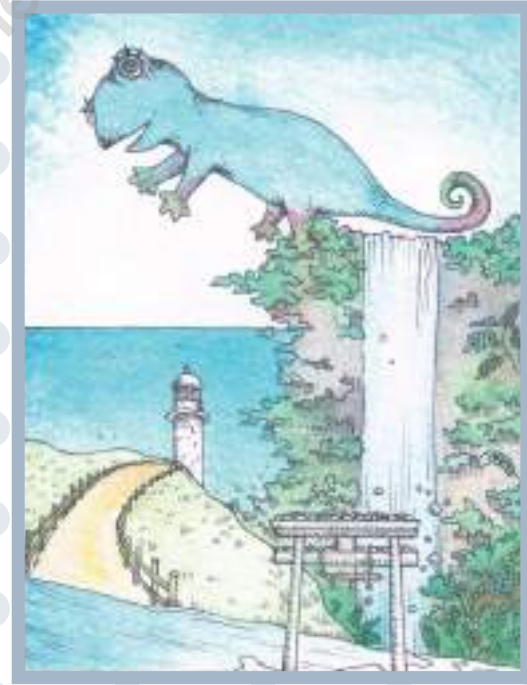
島で一番広い砂浜の海水浴場がある中村エリア。白島海岸に代表される風光明媚な海岸線と急峻な山岳エリアに点在する独特の自然風景と海がもたらすサザエなどの豊かな海産物が魅力のエリアです。



— エリア紹介 —  
つま  
都万エリア

水と時がゆったり流れる

だんぎょう  
壇鏡の滝、油井の池など隠岐ユネスコ世界ジオパークを代表する水のスポットを有する都万エリア。那久岬、油井の前の洲など雄大で美しい海をゆったりと体感できるエリアです。



↓島のダイナミックな自然環境は、シーカヤックに最適だという



### 移住者インタビュー 001

もりやま けいすけ  
森山 敬介 さん (28歳)  
ネイチャーガイド  
島根県大田市出身  
移住歴4年

仕事も、遊びも、とにかく海の傍で生きていきたい

“Nature Guide 遊び屋”という屋号でシーカヤックやその他アクティビティのガイドをしつつ、傍らではカニ漁師、素潜り漁師、ワカメの水産加工業等海に関わる仕事ばかりしている、大の海好き。

### 本格移住の基盤を築いた講師時代の1年間

森山さんが初めて隠岐に住んだのは、小学校の講師としてやってきた2015年のこと。「幼いころからとにかく釣りが好きだったので、それができるから、という理由で赴任地として隠岐の島町を希望しました」このときは、1年の滞在で島を出たが、地元の島根県大田市に戻って過ごすなか、ある日ふと「あれ？隠岐に行きたい」と思ったという。「思い立った後、隠岐の知人に連絡をして、すぐ島に向かいました。年末の大荒れの海の中、フェリーに乗って。お世話になった人達の伝手を頼りに、春からの職探しをしたんです」その後隠岐に本格移住をした森山さんは、観光協会に就職。

「このとき、隠岐の島町だけでなく、島前の各島にも人との繋がりができました。観光のデータなんかもあるいろと見ることができて、それが今の仕事に結びついていくんです」

### 漁師とカヤック、夢をかけたあわせたマルチワーカーに転身

高校生のときは漁師に、大学生のときはカヤックを仕事にできたらと思っていた、という森山さん。「けれど、現実的に考えたら、どちらもそれだけで食っていくことは難しいよな、という冷静な自分がありました」そんな中、彼はあることに気づく。「自分がやりたいことをパッと見回したとき、それが全部隠岐にあったんです。それ1本では生活できなくても、掛け合わせたらやっていくことができるんじゃないかって。

隠岐って、余白がいっぱいあるんですよ。都会ではもう埋まっている枠が、この島ではまだ余っている。だから、完璧な形ではなくても、開拓しながら手を付けることができるのが大きな魅力といえ



↑得意の釣りでは、こんな大物を釣り上げることもしばしば

ますね」それから彼は、酒づくり、映像制作、海産物加工、観光ガイド、漁師など、自身の興味や特技を活かし、様々な職を掛け持つマルチワーカーとしての活動を始めていく。そして、遂に転機が訪れた。「ある日、SNS経由でシーカヤックのガイドをして欲しい、というメッセージが届いたんです。当時ガイドはやっていなかったのですが、それじゃあ起業しなきゃ、ってなって」2021年には漁業権も獲得し、漁師としての活動を開始。また、カヤックガイドの仕事も本格化すべく開始したクラウドファンディングでは、大成功を収めた。正に、かつての夢を仕事にしたのだった。

### 地元の人は、どっぷり付き合っています。笑

現在は、島の北東部の西村という地区に家を借りている森山さん。「隠岐って意外と家賃が高いんです。最初は西郷港の近くに家を借りていましたが、知人を頼りに家探しをしました」

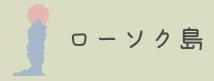
破格の家賃で家を貸してくれるという人に、ある条件を出されたという。「その地区の伝統行事である“神楽”に参加することが絶対条件だったんです。地元で神楽は6歳の頃からやっていたので、あ、僕笛吹けますよ〜って。笑」新しい場所での暮らしは、嬉しいご縁をもたらしてくれた。「隠岐は、その地区の漁師さんの承認を得ないと漁業権を取ることができないのですが、近所の漁師さんのお手伝いをしたことがきっかけで、それを得ることができました」近所のお母さんたちがおかずや野菜を持ってきてくれると、得意の釣りで獲(え)た魚をお返しにおすそ分け。

### Message 移住に興味のある方へ

他の移住者を見ていても思いますが、色々な人にお世話になっているけれど、根本的な部分はちゃんと自分でやっている。それが確立すればするほど、周りもしっかり繋がってくるんだと思います。



山中にある樹齢800年の神秘的なご神木。20数個の巨大な鍾乳石状の乳根からその名前が付けられた。



隠岐の島町のアイコン的存在の観光スポット。岩の先に夕日が灯る景色は感動モノ。遊覧船で観に行けます。

ノイズの少ない田舎は、クリエイターには最高の環境



**移住者インタビュー 002**

**Iターン** 起業者/ゲームクリエイター  
神奈川県/香川県出身

**野一夢二さん** ゆめじさん (28歳)  
**あやか絢花さん** あやかさん (25歳)

移住歴2年

地域おこし協力隊として来島したのち、合同会社を立ち上げる。2021年8月に、第一の事業である「ボードゲームカフェ」をオープンした夫夢二さん。妻の絢花さんは、フリーランスのゲームクリエイターとして活躍中。

移住にベストだった「隠岐のスペック」

夫婦共に、フリーランスでゲーム制作関連の仕事で活躍している野一ご夫妻。二人が移住の地として隠岐を選んだのは、夫・夢二さんの入念な「下調べ」のもとだった。夢二さん(以下、夢)「学生時代、ゲームを作りながら日本一周をしていたんです。いずれ田舎に移住をしたかったので、下調べの意味も込めて。その中で、離島はクリエイティブに向いた環境だな、と思いました。時間の流れ方が違うし、ノイズが少ないんです。夜も早くに店が閉まるし、誘惑もない。ストイックな環境が非常に良いですね」



↑移住を見据えて、学生時代に日本一周をしたという夢二さん

集があった、隠岐の島町に目をつけた。夢「この島のスペックは、色んなもののバランスが良かったんです。例えば同じ離島でも、人口が10万人を超えてしまうと、開発されすぎていて伸びしろが少ない。逆に1万人を切ってしまうと、生活インフラに不足が出てくると考えま

した。スーパーが2か所あるので価格競争が生じて物価に好影響が出ているだろうし、空港もあるからいざというとき実家にも戻りやすい。面接でやってきたとき、港が綺麗だったのを見て、この島の行政は、外に向けて発展させたんだという気概も感じました。役場の職員さんも、この島は変わっていかねばならない、と腹を割って話してくれて。自分の見立てに間違いはなかった、と感じましたね」

インターネットを通じれば世界中と繋がることができる

絢花さん(以下、絢)「私は元々香川県の地方都市レベルの地で育ったので、特に田舎で暮らしたい、という気持ちはなかったんです。それがゲームクリエイターという職に就

いて、職場で夫と出逢い、結婚。彼の意見を聞いて、確かに離島はこの仕事するのに適した場所だと思いました。ノイズが少ない、というのは私も同意見です。人との関わりをシャットアウトすることもできるので、同業者を見て焦りを感じることもないし」

島での暮らしに、特に不便はないという妻・絢花さん。

絢「スーパーもあるし、言うほど田舎でもない。夫が事前にスペックを見てくれていたおかげです。あと、ネット通販が普通にできることには驚きました」

移住してから二年で、空家バンクから新興住宅地に家を購入した二人。夢「場所から、近所の絡みはそんなに無いですね。田舎ならではの人付き合いが苦手という人でも住みやすい地区なのではないでしょうか」

絢「私は島での人間関係はほぼ遮断しています。私たちの場合は、インターネットを通じれば世界中と



↑仕事で家に籠りがちな絢花さんは、たまに夢二さんと外出して自然に触れることが息抜きになっている

2021年8月にオープン  
↓約130個のゲームを楽しむことができる



繋がることのできるのです、これでOK」

夢「とはいえ、縁もゆかりもない僕らにとっても良くしてくれる島の人たちに、家を買うことで“数年で出ていっちゃうような移住者ではないですよ”というひとつの決意を表明して、信用してもらえたらな、という思いはありましたね」

2021年8月にボードゲームカフェをOPEN

現在合同会社を立ち上げ、第一の事業である「ボードゲームカフェ」をオープンした夢二さん。

夢「ボードゲームは、電源を使わ

ないアナログゲーム。対面に相手が必要なので、コミュニケーションの促進にもなります。現在は就活の面接や教育の場でも活用されていて、ゲームは決して趣味だけに収まらない、社会的に役に立つものなんだ、ということも島民の方に知ってもらいたい、という想いがあります」

学生時代の仲間も島へ呼び込み、事業を展開させていく準備は万端だ。

夢「趣味と仕事を同一化させたかっただんです。そして、一生楽しく仕事をしていきたい。そういう人を隠岐にもっと集めたいな、と目論んでいるところなんです」

Message 移住に興味のある方へ

クリエイターやエンジニアタイプに、島暮らしは向いていると思います。最適化することに喜びを感じる方は、自分の生活においても、ストレスだとか余計なものを削ぎ落していくことができるこの生活は快感なはず。

子育ての環境を求めて、都会から田舎へ



**移住者インタビュー 003**

UIターン 会社員/看護師 愛知県/隠岐の島町出身

高雄大輔 (41歳) 由香 (32歳) 泉 (2歳)

たかお だいすけ ゆか さん さん ちゃん

移住歴 2年

長女・泉ちゃんの出産を期に、2019年の冬に愛知県名古屋から、妻・由香さんの地元である隠岐の島町に一家で移住。

人も仕事も、子育てにとても良い環境でした

移住前は名古屋で夫・大輔さんはサラリーマンを、妻・由香さんは看護師をしていた。長女・泉ちゃんの出産を期に、「子育てをするなら田舎でしたい」という大輔さんの強い希望で、由香さんの実家である隠岐の島町に住むことを決意したという。

大輔さん(以下、大)「せかせかした都会ではなく、田舎でのびのびと子育てをしたかったんです。それなら、奥さんの実家が離島だからちょうど良いじゃないか、と思って」由香さん(以下、由)「私は島に戻るつもりは無かったですけど、出産してから数日でそう伝えられて、よくわからずにOKしました」実際に過ごすと、子育てにとても良い環境だと感じたというご夫妻。

大「移住前は、残業で毎日夜の23

時に帰宅する生活をしていました。島の暮らしでは、毎日定時に帰ることが当たり前。子供と一緒にいる時間が増えたことがとても嬉しいです」

由「家が密集しているエリアに住んでいるんですが、小さな子どもが少ないこともあって、大切にしてくれるんです。近所を散歩していると、みんなが娘に声をかけてきて「お菓子を買っておいたよ」と渡されたり。本当に、毎回手ぶらで帰るこ



↑「手ぶらで帰ることが無い」という近所のお散歩コース

とが無いんですよ」

由「保育所も、小規模で人数が少ないぶん、しっかり見てくれているという安心感があります。園児が育てた野菜や、地元の魚を給食で使ったりしてくれるのも嬉しいですね」

大「僕は離島に住んだことが無かったので、人間関係が島特有なのか、世間が狭いかな、と不安に思っていた部分はありました。けれど、実際に来てみたら良い人が多くて、とても住みやすかったです」

島に無いなら、自分で作れば良いじゃん！って

都会とは全く異なる環境を、うまく活かして楽しむのが高雄家のスタイル。

由「休みの日は娘を連れて動物を見に行くことにハマっています。ヤギとか、野生の鳥とか、このあいだは、友人の飼っている牛を見せてもらいに行ったり」

大「先日は海で釣りをしながらBBQをしました。アウトドアが好きなので、もう少し娘が大きくなったら、子連れキャンプもしたいです」

更に、元々は料理をしなかった、という大輔さん、移住してからは本格的に出汁をとったラーメンや、スパイスカレー作りには手を出し始めたという。

大「向こうに住んでいたときはよく食べに行っていたものが、島だと無いんですよ。それなら、自分で作れば良いじゃん！ってなって」

由「なかなか美味しいものを作ってくれるから、嬉しいですね」



↑釣りをしながらBBQをした日、ビーチでお昼寝の泉ちゃん



↑泉ちゃんが1歳の頃、写真が趣味の島の友人に撮ってもらった家族写真。趣味を通じた人々の繋がりで、すぐに友人も増えたという大輔さん

唯一にして最大の困難は、家探しでした

現在は、空き家を購入し、そこをリフォームして住まいとしている高雄家。

大「本当は色々な選択肢の中から選びたかったけれど、そうはいきませんでした。まず、インターネット上に物件情報がほぼ無いので、実際に島に行かないと探せないんです」

由「私たちの場合は、親戚がいたからなんとかあったけれど・・・全くツテが無い人なんかは、諦めて、移住やめようかな、ってなるんじゃないかな、というほど苦労しました」

大「家探しはもちろん、仮住まいの手配や引っ越しのサポートなんかも、もっと行政が頑張ってくれたら、移住者は増えるんじゃないかな、と思いましたね」

Message 移住に興味のある方へ

家探しも仕事探しも、人との繋がりが私たちをサポートしてくれました。住まいさえ落ち着けば、子育てにもとても良い環境です。



仲良し家族の絆が つなぐ 島の人々の輪



**移住者インタビュー 004**

**Iターン** 飲食店経営 和歌山県出身

**田本 和美美さん** たもと かずみ (35歳)

**優さん** ゆう (35歳)

**凌さん** りょう (26歳)

移住歴 3年

西郷地区内で「居酒屋まある」を営む3人親子。約20年前に隠岐に住んだ経験がきっかけとなり、2018年に再び移住。

島に初めてやって来たのは、約20年前

広々とした店内は、まるで都会のようなモダンな雰囲気漂う。地元の若者グループや、会社帰りの常連客でにぎわう「居酒屋まある」。この店を切り盛りしているのが、田本和美美さん・優さん・凌さんの3人だ。和歌山県出身の田本一家が、この島に初めてやって来たのは、約20年前のことだった。和美美(以下、和)「知り合いのツテで仕事を紹介してもらい、島へやって来たんです。そのときは、この場所がとても気に入ったわけではなかったけれど、仲の良い友達が出てきて、それが現在の暮らしに繋がっています」島にやって来る前は岡山県の都市に住んでいた一家は、都会とのギャップに驚いたという。

優「当時私は中学生でした。隠岐のことは何も知らなくて、とにかく田舎でびっくりしたことを覚えています。エスカレーターがある(※)ことに驚くくらい、何も無い場所、という印象が残っています」その後、一家はいちど隠岐を離れることになる。優「私と母は、10年ほど隠岐に住みました。母が勤め先の本社に異動することになり、一緒に岡山県に再び戻るようになりました」凌「僕は小〜中学校の8年間くらい隠岐に住みました。都会の暮ら



↑ワイングラスホルダーは、DIYが得意な優さんによる手作り

しに憧れたこともあり、大学卒業までは東京都内で暮らしていました」※当時は島にエスカレーターがあった。2021年現在は無い。

一度ばらばらに暮らした3人が、再び島に

そんな3人が、再び隠岐へ戻って来るきっかけになったのがこの「居酒屋まある」だった。和「元々は飲食店を何店舗か経営していた経験もあり、いつかは脱サラをして、商売をしたいと考えていました。元々転勤族だったので、思い入れのある土地が少なかったのですが、島には信頼できる良い友達も居たこともあり、隠岐でやりたいな、と思い物件を探していました」島の知り合いから空き物件の情報が入り、2018年の夏、まず和美美さんが単身隠岐へ戻ってきた。その

後、都内で就活中だった凌さんに声をかけたという。凌「ゆくゆくは自分でお店がしたいという想いがあり、迷いながらもその誘いを受けることにしました。母は昔から一家の大黒柱で、パワーがあるし、経営や料理の知識もある。今は修行のつもりでやっています」その後、今度は凌さんが、岡山大働く優さんに声をかけた。凌「まず、家族と一緒に居たい、という想いが一番ありました。あとは姉の仕事ぶりは昔から見ていたので、他の人とやるよりも、上手くいこうなと思ったんです」優「その時は、仕事で役職もついていたし、辞めるつもりはなかったんです。けれど、昔からお母さん子で、離れたことが寂しかったこともあって、行くことを決意しました」和美美さんの動きが中心となって、家族の絆が結ばれ、再び隠岐での暮らしが始まった。



↑店内奥にある3室の個室はモダンな雰囲気。ここには優さんと凌さんのアイデアやセンスが詰まっている



↑店の入り口で。「まある」という店名は和美美さんの思い付き。

まあるをきっかけに、家族それぞれの暮らしも充実

営業時は、母・和美美さんが調理を、姉の優さんは接客を、そして弟の凌さんがその中間ポジションを担当しているという。この仕事をきっかけに、家族それぞれの暮らしも充実しているようだ。和「子どもたちのおかげで、若いお客さんも来てくれるのは嬉しいですね。休みの日に会うと、声をかけてくれたり。私は死ぬまで働くタイプなので、お休みの日も食べ歩きをしたり、常に研究しています」優「接客は好きだけれど、実は人見

知りだったんです。隠岐の人はあったかくて、常連さんとも仲良くなれたことが一番の喜びです。今はお休みの日なるべく充実させて、飲みに行ったりして人々と交流することが大好きになりました」凌「今は修行感覚で、料理や接客のスキルが身についていくことが楽しいです。最近は僕個人でファストフードの出張店舗を運営し始めて、独立への第一歩を踏み出した感覚です」それぞれの特技やセンスを活かしながら、隠岐に無いものを創り出していく田本一家の挑戦はまだまだ続いていく。

Message 移住に興味のある方へ

良くも悪くも距離感が近い場所だと思います。閉鎖的なところもあるけれど、耐性があるのか、移住者にも優しいです。起業するにあたって、「スキマ」がたくさんあるので、目を凝らせばチャンスは多いですよ。





島民インタビュー001  
 サンテラス株式会社代表取締役社長  
**金田洋二郎さん**  
かねた ようじろう  
 ショッピングプラザ  
 サンテラス  
 食料品を始め、日用品や衣料品売り場から、おもちゃ屋や100円均一まで立ち並び、島民の生活を大きく支えている施設。

島の暮らしを彩る“良い意味で期待を裏切る”  
 大型スーパーの立役者

島の生活に、豊かさと  
 楽しさをプラスしたい

広々とした店内には、地元産の米や野菜・鮮魚のほか、豊富な肉類や輸入食材まで、充実の品揃え。更には、制服のアロハシャツを纏ったスタッフ達が生き生きと接客する店内は「ここが離島のスーパー？」と、初めて訪れる人ならば驚きを隠せないはず。この一風変わった店のしきみを産み出したのが、代表の金田さん。「島民の暮らしに、プラスアルファの豊かさと楽しさを与えたい」彼のこの強い想いは、子ども時代の隠岐での暮らしに起因する。

このままでは、僕が好きになれなかった隠岐と変わらない

「何もない田舎の暮らしに特に思



↑ 2019年に大規模改装された店内

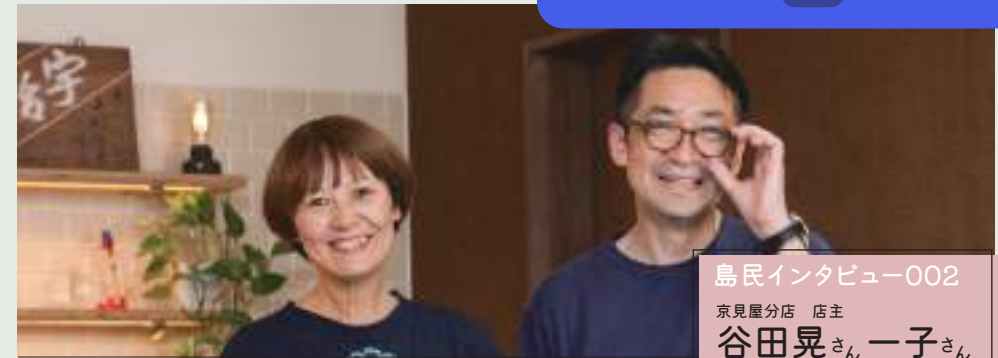
い入れはありませんでした。隠岐が好きではなかったし、島を出たときは、戻るつもりもありませんでした」  
 そう語る彼が家業のこともあって島へ帰ることになったのは、2002年のこと。「海外生活や、大阪の大手スーパーでの勤務を経験した僕は、当時とはとにかく隠岐にないものを入れたい、田舎を脱却したい、と躍起になっていました。けれど、お客様や従業員からは総スカン。全くの空回りでした。その後は、これまでのやり方に従いながら業務に取り組んだものの、「このままじゃ僕が子どもの頃好きになれなかった隠岐と変わらないじゃないか」と思ったんです」  
 そこから、これまで単独で行っていたアメリカでの視察を始め、あらゆる驚きや感動を「スタッフと共に体験」することを始めた金田さん。「場面を共にした相手がいると、思い描くイメージが一気に伝わりやすくなります。個人が自分のやりがいや存在意義を求め始め、店のしきみにもどんどん新しいものが入り入れられていきました」

より幸せな隠岐を目指して

その一方で、島民の元々の性質も大切にしているという。「隠岐の人って、周りの人のために凄く必死に働くんです。表も裏も、素直に見せてくれるところも面白いですね。それを無理に変えることはせず、個性を発揮してもらおう心がけています。幼少期には知らなかった隠岐の良さが、人々を通して見えてきたんです」  
 地産地消による子ども達の食育、島のスポーツイベントのパートナー事業など、スーパーとしての枠組みを超えた取り組みをおこなう金田さんは、「島の人に“サンテラスによって幸せになった”と言っても、今一番のやりがいと喜びです」と意欲を膨らませている。



↑ 隠岐で獲れた鮮魚も並ぶ



島民インタビュー002  
 京見屋分店 店主  
**谷田晃さん 一子さん**  
たにだ あきら かずこ  
 贈り物・うつわ・お茶・くらしの道具  
 京見屋分店  
 雑貨を販売しつつ、コーヒーやクラフトビールを飲めるカフェスペースも備えた、島民や移住者・旅人の交差点にもなっているお店。

地元民×移住者×旅人が面白いこと・  
 新しいことを生み出す場所

ただモノを売るだけではない雑貨屋さん

島根の器やお土産、日用品等が雰囲気良く並んだ店の奥へ進んでいくと、大きなテーブルと、キッチンカウンターが構えている。店内には、商品をじっくりと品定めする人、お茶を飲みながら談話する地元の主婦、PCを広げて何やら作業をしている旅人のような若者。夕刻になると、スーツ姿で仕事帰りにビールを一杯飲みに来るお客さんも。その一人一人に声をかけて、暖かく迎え入れるのが、店主の谷田夫妻。この、「ただモノを売るだけではない雑貨屋さん」は、果たしてどのように出来上がったのか。

突然やってきた  
 クロマツのテーブル

元々は主に日用品販売をしていたこのお店を、先代から引き継いだのは2011年のこと。「当時は、カフェ的な要素は無く、ただ棚に商品を並べて売ってだけの店でした。でも、いつも誰かいらがやってきて、店の隅でお茶を飲んで喋っては帰っていく、という

はありました。先代の頃から、お客さんが来たら、お茶を飲んでもらっていく、という習慣があったんです。自分たちも、外で人に会ったら、店に足を運んでもらえるように“今度お茶飲みに来てよ”って声をかけていたんです」  
 この独特なスタイルが、今の京見屋分店に繋がっていく。「ある日、お世話になっている工務店の方が、島内産のクロマツで作った大きなテーブルを持ってきたんです。いきなり。笑 始めは置場所もないのに困ったな、と思っていたんですが、いつの間にかそこに人が集まる雰囲気ができて、その辺りから、店の空気感が変わりだしたんです。人と人がここで出逢って、面白いアイデアをくれる。それによって店の方向性も大きく変わっていきました」



↑ クロマツのテーブルに人が集まる

私たちに個性はない。それが集う場所になっているだけ

2019年にはキッチンとカフェカウンターを導入し、クラフトビールの提供も開始。ゲストを迎えるのフード販売やビール祭りなど、イベントは毎回大盛況だ。「次々と新しい人に出会うことで、こういうことができたらいいな、あのひととこんなことができたなら楽しいな、と盛り上がっていく。若い人を応援するというよりは、一緒に楽しませてもらっている感覚です」  
 “自分たちに個性はない、それが集まる場所になっているだけ” 控えめにそう語る二人だが、その交流を目一杯楽しみ大切に作る姿に、多くの人たちが引き寄せられているのだろう。



↑ イベント開催時は毎回大盛況





移住者も参加する  
アウトドアサークル  
があるんです

**さき** みなさん、普段はどんなアウトドア活動をしているんですか？

**ともこ** 私は元々海が好きだったのですが、最近は山遊びをしています。隠岐の山はがっつりとした登山じゃなくて、気軽に入れます。それでいて、植物の生態が面白いから、奥深いんですよ。(持参したすももを食べながら)あと食べられる果実を収穫できるのも嬉しいですね。笑

**まき** 私も登山が好きで、よく山頂でクッキングをするんです。ホットサンドを作ったり、お抹茶を習っていたことがあるので、野点をしたり。こないだ作ったパスタも美味しかったな～

**たつる** 今日のメンバーも何人か参加しているんですけど、島に住むアウトドア好きが集まったグループがあって。登山、キャンプ、カヤック、ダイビング、写真とか、それぞれが得意分野を持っている面白いメンバーで。この中の誰かが言い出しっぺになって、外遊びをすることがよくあります

**たくみ** 移住したての人に声をかけたりもするので、このグループに参加したことでアウトドアにハマったというパターンもけっこうあるんですよ

**まき** 私も島に帰って来た当時は登山しかしていなかったけど、今ではキャンプもするようになったのは、この仲間たちの影響が大きいですね

座談会メンバー



**たくみ**  
島内出身 在住歴24年  
趣味：キャンプ、マリンスポーツ、自転車 etc  
島外に住んだことの無い、生粋の隠岐っ子。小学・高校時代はヨット部に所属しており、海遊びが特に得意。



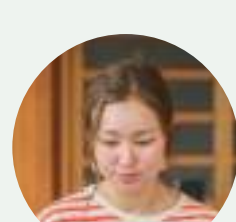
**ともこ**  
東京都出身 移住歴5年  
趣味：ダイビング、シーカヤック、スノーケリング、トレッキング  
国内外での経験を活かしネイチャーガイドやシーカヤックインストラクターとして活動するほか、私生活でも自然遊びを満喫。



**まき**  
島内出身 Uターン歴5年  
趣味：登山、キャンプ、アウトドアアクキング  
観光関連の仕事に従事。趣味の登山では、秋は落ち葉の踏み心地を、冬は雪景色の異世界感を楽しむのが好き。



**たつる**  
神奈川県出身 移住歴4年  
趣味：外で過ごすこと  
祖母が住む隠岐の島町に地域おこし協力隊として移住。自然ガイドのほか、コーヒー屋など、「なんでも屋」として活躍中。



**さき(司会者)**  
静岡県出身 移住歴8年  
趣味：魚突き、ロードバイク  
ゲストハウス経営やweb制作などマルチワーカー。最近のマイブームは果物のなる木に登ること。



↑絶景の「高田山」

いですね

**たつる** 僕は祖母が隠岐に住んでいたの、幼いころよく遊びに来ていたんです。父のレクチャーで海や川で釣りをして。この島は自然がとても身近なので、遊びのフィールドにすぐ出ていくことができるのが魅力的だなと思っていました

**さき** 確かに、隠岐は普段の生活から大自然を感じることができますよね

**ともこ** 初動がラクですね。海が目の前なので、仕事の合間に水浴び感覚でSUPを担いで出て行ったり

**まき** 「あ、今日は天気良いから山に行こう!」って、思い立ったらすぐ行けるのは魅力的ですね

**ともこ** 私、究極のアウトドアは、自宅だと思っているんです。市街地から離れたエリアに住んでいれば、庭があるし、隣の家とも距離があるから、遊び放題

**さき** 確かに!私は庭でBBQしたり、果物を採ったり畑仕事をした

りは日常茶飯事です。これもアウトドアのひとつですよ

**たつる** 僕これは実は誰にも教えたくないんですけど、家の裏が絶好の釣りスポットで。ヒラマサやタイにヒラメ、かなりの大物が釣れるんですよ。朝でも晩でも釣りし放題!

**さき** これだけ身近だと、アウトドアはもう普段の生活の一部といえますよね

### よりコアなアウトドア体験を求めて

**さき** ここまで日常的に外遊びしていると、そのやり方は進化していくんじゃないですか?

**たくみ** シーカヤックなんかは、普通のツアーで行く場所じゃなくて、自分たちで自処を立てて長距離を漕いだりするようになりましたね。1日かけて島を4分の1周したのは楽しかったな!

**たつる** 僕は野池とか小川の新しい場所を開拓するのが好きです。座って、瞑想したり、コーヒー淹れたり。あと、石を積み上げたり



↑海に沈んでいく夕陽を眺めながらのキャンプ



↑風光明媚な島の自然を満喫できるシーカヤックツアー

**ともこ** 私こないだ、たつる君が積んだ石、見つけたよ。笑

**たくみ** 誰かが来た痕跡をみつけて、蜘蛛の巣の張り具合で「これはけっこう前に来たな」とか推理するのとか楽しいですよ

**ともこ** 私は満月の日に月光浴するのが好きなんですけど、良いスポットに誰かの車が停まっているのを見つくと、同じことしてる人がいるんだな、と思って嬉しくなります(そして自分は誰もいない別のスポットへ行く)

**まき** ホタル、霧、紫陽花とか、季節ごとの楽しみが年間でスケジュール化されている感じもありますよね

**さき** みなさんのSNSを見ると、「あ、今日は満月か!へー、今は夜光虫の時期なんだ!」とか分かるので助かっています。笑

### 冬こそ究極のアウトドアタイム?

**さき** 隠岐は冬がけっこう厳しいですが...みなさんは冬場どんなアウトドア遊びを楽しんでいますか?

**ともこ** 私は冬は南半球に逃げます。無理して遊ばなくても、島の外に出れば良いという考えです

**さき** 私もそっち派ですね。仕事の自由が効くので、冬場は実家に行ったり、沖縄や東南アジアに滞在していたこともあります

**まき** 私は冬の山のほうが好きです。景色がガラリと変わるから、楽しいし、雪山の歩き心地も良い!

**たくみ** 雪道でウサギの足跡を見つかったり、林道でソリを走らせたり

るからとても良いものですよ

**まき** そして、冬のキャンプは、なんといっても焚火が楽しいです

**たくみ** そう!キャンプというより、焚火をしたい

**さき** たくみは、焚火を始めるまでの手際がおそろしく良いよね。登場して5分後にはもう焚火が始まっているイメージ。笑

**たくみ** 焚火台は常に車に乗せておいて、薪は知り合いにもらったり、現地調達もできるし、サクとできるんです

**たつる** (取材時は真夏だったので)あぁ、火を見てただただぼーとする時間が欲しい

**まき** 私も焚火したい...

**さき** みなさん本当に焚火...じゃなくて外遊びがお好きなんですね!隠岐ならではのアウトドアの楽しみをお聞かせいただき、ありがとうございました!



↑キャンプに欠かせない焚火タイム

# ！ 予想外！隠岐暮らしの真実

移住前に抱えていたイメージと、実際の暮らしはこんなに違った。良くも悪くも、移住者が実際に感じたギャップをご紹介します。

## 1 思ったほど 困らない

お店もたくさんあるし、道も整備されている。イメージしていた「何もない田舎の離島」よりも、はるかに便利な暮らしができます。



## 2 水洗トイレ 100% じゃない

エリアによっては水洗トイレが整備されていないところも。汲み取り式トイレに戸惑う移住者も多数いるようです。



## 3 フェリーが 欠航 になる



台風や、冬場に海がしげ化るとフェリーが欠航になります。島から出ることができないのはもちろん、食料品などの物資がスーパーの棚からどんどん減っていきます。

## 4 常夏 じゃない



実は、隠岐の島町の緯度は石川県くらい。冬は雪が積もることもあるし、離島＝常夏では無いことを知っておきましょう。

## 5 定時帰宅 があたりまえ

定時が近づくと、心なしかソワソワし始める職場…趣味や家族の時間も大切にしている人が多いようです。



## 6 閉店時間 と 定休日 にご注意



中心部のスーパーでも遅くて21時閉店、それ以外の場所だともっと早くなります。

ほとんどのガソリンスタンドは日曜休みだったり、ATMは土曜の昼以降や休日には営業していないものが多いので、ご注意ください。

## 7 お昼休憩は 自宅 で

12時のお昼休みの時間になると、車を走らせて家に帰る人が続々と。お弁当を持ってくるのではなく、自宅でご飯を食べるのも島ならではのスタイルです。



海釣り 島内各地に釣りスポットがあり、また釣り人の聖地としても有名です。夕方の波止場には、お夕飯のアジ釣りをする島民がたくさん現れます。



フェリー

「おき」「くにが」「しらしま」の3隻が本土と島前、島後間を結んでいます。別れのテープカットが行われることもしばしば。



# 暮らしのお役立ち情報

## 移住体験ツアー

### オーダーメイド型アテンドサービス「移住アシスト」

移住希望の方に島ならではの暮らしを体験いただけるプランをご用意しています。

移住アシスト 隠岐

検索



## お仕事

### 公共職業安定所（ハローワーク）

Uターン希望者の方にお仕事に関する相談や町内の求人情報をご紹介します。  
隠岐の島町HPに1カ月ごとに最新求人情報を公開中。

雇用支援 隠岐の島町

検索



### Uターン産業体験事業

島根県へのUターン・Iターンを促進するため、県外在住者が県内受入先で一定期間、農林漁業、伝統工芸、介護の産業体験を行う場合に、滞在に要する経費の一部を助成する事業です。隠岐の島町内にも体験受け入れ先事業所有。  
助成額：12万円/月 助成期間：3ヶ月～1年

お問い合わせ

TEL:0852-28-0690（ふるさと島根定住財団Uターン推進課）

### 隠岐の島町地域農業再生協議会（新規就農）

農業の担い手育成部会が、就農に興味のある方のご相談に応じます。

お問い合わせ

TEL:08512-2-8563（隠岐の島町農林水産課）

### 隠岐の島町地域おこし協力隊・集落支援員随時募集中！

隠岐の島町では、町内で地域おこし協力隊・集落支援員として勤務していただく方を随時募集しています。募集状況は下記サイトからご覧ください。

隠岐の島町地域おこし協力隊

検索



### 民間福祉施設職員就労支援助成金

町内の民間福祉施設に看護師・介護福祉士・保育士として就職された  
新規卒業者及びU・Iターンの方に対し就労支援助成金(2万円/月、最長3年間)をご用意しています。

お問い合わせ

TEL:08512-2-8561（隠岐の島町保健福祉課）

## 住まい

※満室などの理由により、ご希望に添えない場合もあります。

### ①お試し滞在施設（一戸建て）

隠岐の島町への定住を検討中の方に、お試し滞在施設をご用意しています。  
<使用期限>1ヶ月以内 <使用料>最大3万円 ※光熱水費込み。家電完備。

### ②定住お試し滞在住宅（集合住宅）

Uターン希望の方向けに、県職員宿舍を活用した短期（1年間）滞在可能な住宅をご用意します。  
<家賃>16,630円～ <利用期間>最大1年※各年3月末までに退去いただく必要があります。  
<間取り>3DK

### ③Uターン定住希望者向け住宅

- (1) 民間賃貸住宅2棟13室（家賃5万5千円～）→町が管理する民間賃貸住宅（アパート）
- (2) 定住促進住宅4棟4室（家賃2万円～）→町が空家を借上げて管理する民間賃貸住宅（一戸建て）
- (3) Uターン促進住宅6棟7室（家賃8千円～、利用期間3年以内）

### ④公営住宅

町内各所に町営・県営住宅があります。入居に関しては下記にご相談ください。

入居申し込み

TEL:08512-3-1350（県住宅供給公社隠岐住宅管理事務所）

### ⑤空家・空地情報

町の空家・空地バンクに登録された賃貸・売買物件の情報を、町のウェブサイト等でご紹介しています。

隠岐の島町 空家バンク

検索



## 子育て・学校

### 保育料軽減

第1子の保育料は国基準のおよそ半額です。また、第2子以降は無料です。

お問い合わせ TEL:08512-2-8577 (隠岐の島町保健福祉課)

### 子ども等医療費助成制度

0歳から中学校卒業までの医療費が無料です。

<入院・通院・薬局等の自己負担>無料

※一部、助成対象外の費用もあります。

お問い合わせ TEL:08512-2-8560 (隠岐の島町民課)

### しまね留学

町外に在住の中学生が、町内の高校に入学し、かつ高校寄宿舎へ入寮している生徒等を対象として助成します。

- ①<寮費・学習環境補助>5千円/月
- ②<オープンスクール参加宿泊費補助>参加者、保護者それぞれ1万円/人
- ③<下宿等家賃補助>2万円/月、補助率2/3 ※在学期間中のみ補助

お問い合わせ

①,②について	TEL:08512-2-1181(島根県立隠岐高等学校) TEL:08512-2-1526(島根県立隠岐水産高等学校)
③について	TEL:08512-2-8570(隠岐の島町役場地域振興課)

## Uターン・定住支援制度

### ふるさと定住奨励金

Uターンにより町内に居住された方に定住奨励金を交付しています。

<対象者>50歳未満のUターン者 ※転入から180日以内に申請

<交付額>5万円/世帯 ※転入時に夫婦・子育て世帯の場合は各10万円を加算

### 運賃割引(航路・航空路旅客運賃低廉化事業)

隠岐の島町に居住している方は下記割引料金で船、飛行機にお乗りいただけます。

※要助成対象者証明書(役場で発行)

<< 割引後料金：片道 >>

フェリー2等：1,420円 高速船：3,020円※ 小人料金、往復割引等あり

飛行機 隠岐 ⇄ 島根(出雲)：5,600円

### 結婚祝い金

若者の定住と新たな生活を支援するため、町内において婚姻された方に祝い金を交付します。

<<対象者>> ご夫婦共に50歳未満の方 <<助成金額>> 1組10万円

### Uターン促進事業補助金

Uターン者を対象とした、自宅等の改修費補助と賃貸物件の家賃補助があります。

#### ① 自宅等改修補助

<<対象者>>

転入日から起算して3年以内に自宅等の改修を行うUターン者

転入日から起算して5年以内に自宅等の改修を行うUターン者

転入日から起算して1年以内に自宅等の改修を行う学生等

<<交付額>> 上限50万円、補助率2/3

※転入時に夫婦・子育て世帯の場合は各25万円を加算

#### ② 民間賃貸住宅家賃補助

<<対象者>> Uターン者で、50歳未満の方

<<助成額>>限度額2万円/月 補助率2/3 ※子育て世帯加算1万円/月(交付決定日～1年間)

### わくわく島根生活実現支援事業

東京圏から島根県に移住される方へ、最大100万円(単身世帯：60万円)の支援をしています。

お問い合わせ TEL:08512-2-8570 (隠岐の島町地域振興課)

## 起業支援制度

### 地域商業等支援事業費補助金

町内で新規開業又は事業承継を予定している方に対し、初期費用を補助します。

<<補助対象経費・補助率・限度額>>

改修費、備品購入費、備品リース料、広告宣伝費・1/2・50万円～最大100万円

家賃・1/2・4万円～8万円/月

### 店舗等改善事業費補助金

現在事業を行っている店舗等の、クレジット決済端末の導入、トイレ改修(洋式化)、Wi-Fi設置の費用を補助します。

<< 補助対象経費・補助率・限度額 >>

キャッシュレス決済端末設置費・2/3・10万円 トイレ改修(洋式化)・2/3・60万円

無線LAN機器(Wi-fi)設置費・2/3・宿泊業：30万円、その他業種：5万円

食料品店備品購入費・2/3・100万円

お問い合わせ TEL:08512-2-8575 (隠岐の島町商工観光課)

## 暮らしに役立つQ&amp;A



## Q 車の免許は必要？

島の暮らしを100%満喫するには  
必要です。

レギュラーガソリンの価格は、およそ160円/ℓ  
※全国平均とほぼ変わりません。

Q インターネット環境は  
整備されているの？

島内全域で光インターネット接続サービス  
をご利用いただけます。

そのほか、居住圏においてスマートフォンは問題なくご利用いただけます。  
※山間部は電波が弱くなる箇所がございます。  
※ご家庭の光ファイバー接続屋外工事に約1万円必要です（宅内工事費別途）



## Q 買い物する場所はあるの？

ショッピングセンターやドラッグストア、  
家電量販店、ホームセンター等があります。

インターネットショッピングも問題なくご利用いただけます。



## Q 飛行機でアクセスできるの？

大阪（伊丹）、島根（出雲）から  
毎日それぞれ一往復しています。

大阪(伊丹)空港から50分  
島根(出雲)空港から30分で結ばれています。  
島根(出雲)空港便は島民割引(片道料金5,600円)があります。



## Q 子育てできる環境はあるの？

保育所、小学校、中学校、  
高等学校が島内にあります。

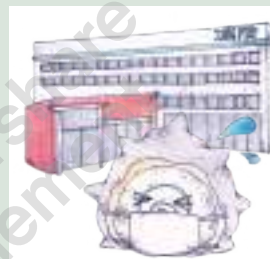
医療費軽減制度や高校寮費・賃貸住宅家賃助成があります。  
保育料も第1子は国基準のおよそ半額、第2子以降は無料となるなど  
充実しています。



## Q 病院の機能は充実しているの？

手術、出産の際に安心して  
ご利用いただける総合病院があります。

そのほか、各地域に診療所や歯科医院などがあります。



## Q コンビニ払いはできるの？

ショッピングセンターで  
ご利用いただけます。

島内の一部の大型ショッピングセンターでご利用いただけます。

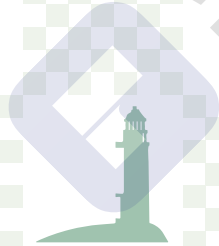


## Q 外食はできるの？

様々な種類の飲食店がございます。

和食、洋食、カフェ、居酒屋など  
島内に様々な種類の飲食店が50店舗あまりあります。





Wondershare  
PDFelement